



株主通信 <第55期 第3四半期>

JBCCホールディングス株式会社 (証券コード: 9889)



差出人 東京都大田区蒲田五丁目37-1
ニッセイアロマスクエア15F
JBCCホールディングス株式会社
広報IR

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

※本通信は2018年9月末時点での株主様にお送りしています。

01 OPEN トップメッセージはこちらから。

[ご注意] 濡れている場合はよく乾かしてからめくってください。

第3四半期のトピックスをご案内します。

働き方改革の取り組み

J Bグループでは、RPA※1やチャットボット※2などの先進技術を用いた働き方改革に積極的に取り組み、自分たちが社内で実践したことをお客様に提案する“オフィスショーケース化”を進めています。

J Bグループ各社で共通する業務(経理・財務、人事・総務、情報システム、業務サービス)を行っているC&Cビジネスサービスでは、それぞれの業務にチャットボット、Excelのマクロ化※3、RPAを組み込み、業務の標準化、統合化を進めています。この活動により、対象業務の工数を28%削減するとともに、社員一人ひとりの業務改善への意識向上にもつながっています。



実践例

- ・グループ社員からの問い合わせをチャットボットで対応
- ・契約関連業務で通知対象を自動で抽出し、RPAで通知書を作成
- ・採用活動でのRPA活用

※1 (robotic process automation)人工知能を備えたソフトウェアのロボット技術により、定型的な事務作業を自動化・効率化すること

※2 [対話(chat)]する「ロボット(bot)」という2つの言葉を組み合わせたもの

※3 決まった操作や処理を記録して、それをあとから呼び出して自動実行させること

さまざまな情報発信をしています。

当社ホームページでは、業績・財務情報ははじめとして最新情報をご案内しています。Facebook、Twitterでは、身近な社員の活動などもご紹介しています。

業績などIR情報(企業サイト) ▶ <https://www.jbcchd.co.jp/ir/>

ソリューションなど事業情報(グループサイト) ▶ <https://www.jbgroup.jp/>

Facebook ▶ <https://www.facebook.com/jbcchd>

Twitter ▶ <https://twitter.com/jbcchd>



JBグループのCSR



ベルマーク運動で緑化活動を支援

J Bグループは、公益財団法人オイスカが推進するアジア太平洋地域の緑化活動「子供の森」計画※の趣旨に賛同し、今年度よりグループ内で、ベルマーク運動を推進しています。



<http://www.oisca.org/project/cfp/>



※「子供の森」計画(CFP:Children's Forest Program)

「子供の森」計画は、ベルマーク教育助成財団の友愛援助の対象事業として認定されており、子供たち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にす気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうというプログラムです。1991年にはじまったこの活動は、2018年3月末現在、36の国・地域の5,080の学校が参加するまでにその輪が広がっています。

【IRメール配信サービス(無料)】のご案内

当社の業績など適時開示内容や当グループ内の最新情報をメールでお知らせします。配信をご希望の方は、下記よりご登録ください。

登録サイト

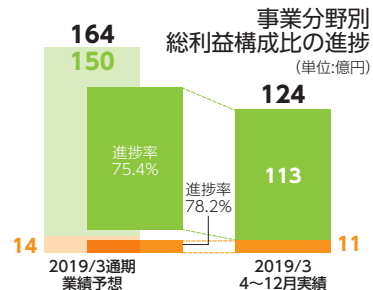
<https://www.jbcchd.co.jp/mail/>

決算などの財務情報に関するご質問は

0120-887-652 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日除く)
e-mail: ir@jbcc.co.jp

※本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれていません。実際の業績は予想と大きく異なることがありますことをご承知おきください。

第3四半期(4~12月)の概況をお知らせいたします。



情報ソリューション
企業の情報システムの構築及び運用保守サービス等を提供

製品開発製造
当グループ独自のソフトウェア及びプリンターなどの情報機器の開発・製造・販売

情報ソリューション ▶ 売上高410億 9百万円(通期予想進捗率 75.0%)
▶ 総利益113億17百万円(通期予想進捗率 75.4%)

高付加価値ビジネスへのソフトや効率化等の取り組みにより利益を確保しました。

- **サービスビジネス**：セキュリティサービスやヘルプデスク等の運用サービスが伸長。
- **システム(ハードウェア等)**：引き続きWindows10更新やサーバー更新のビジネスが堅調に推移。付加価値の高い次世代プラットフォームのビジネスに注力し、利益率に貢献。
- **システム開発**：前年同期比の売上は減少したが全般的に回復傾向。超高速開発やクラウドネイティブの新しい取り組みは好調に推移。

製品開発製造 ▶ 売上高 18億20百万円(通期予想進捗率 70.0%)
▶ 総利益 11億34百万円(通期予想進捗率 78.2%)

収益性の高いソフトウェアソリューションが着実に伸長しています。

- **J Bソフトウェア**：情報連携支援や意思決定ソリューションが伸長。
- **生産管理システム[R-PiCS]**：導入や開発が前年と同水準で推移。併せて、新バージョンへの入れ替えビジネスも伸長傾向。
- **ハードウェア**：主力のインパクトプリンターの売上が需要縮小により減少傾向が継続。

ディストリビューション

前年度において、ディストリビューション分野に属する株式会社イグアスが連結対象から外れたことに伴い、当グループの今年度におけるディストリビューション分野の事業活動は行っていません。

ごあいさつ

平素は当社の経営に一方ならぬご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、2018年度第3四半期が終了いたしましたので、連結決算概況をご報告いたします。

ITサービス市場の動向は、既存システムの更新に加え、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等、新たなIT活用の検討が更に進んできており、IT投資も緩やかに伸長してきております。当社の主なお客様である中堅企業においても同様の傾向が見られます。

このような中、第2四半期に引き続き、保守切れに伴うサーバーの更新やWindows10更新のビジネスが堅調に推移するとともに、利益率の高いオリジナルのJ Bソフトウェアのビジネスが伸長するなど、更なる収益力の向上に取り組みました。2017年度第1四半期末に連結子会社であった株式会社イグアスの全株式を売却したこともあり、前年同期比では減収となりましたが、第2四半期に引き続き増益となりました。

当第3四半期の連結業績は以下のとおりです。

なお、2018年10月25日公表の通期連結業績予想に変更はありません。

当第3四半期の連結業績ハイライト

[売上高]	428億29百万円	[前年同期比11.5%減] [通期予想進捗率74.7%]
[営業利益]	20億 5百万円	[前年同期比27.8%増] [通期予想進捗率81.7%]
[経常利益]	21億29百万円	[前年同期比34.1%増] [通期予想進捗率84.2%]
[親会社株主に帰属する四半期純利益]	14億59百万円	[前年同期比44.2%増] [通期予想進捗率93.0%]

第4四半期についても、中期経営計画に掲げた7つの成長事業(WILD7:クラウド、NewSI(新システム開発)、セキュリティ、J Bソフトウェア、ヘルスケア、3D事業、人財育成)を推進し、お客様のデジタルトランスフォーメーションへの取り組みのご支援を積極的に行ってまいります。

株主のみなさまのご期待に沿えるよう、グループ一丸となって目標達成に向けて全力を尽くしてまいりますので、今後とも一層のご支援ご鞭撻を、よろしくお願い申し上げます。

2019年2月
代表取締役社長

山田 隆司



配当・株主還元について

株主様アンケートでもご質問をいただいております「配当・株主還元」について、当社はすべての株主様に利益を還元することが重要と考え、株主優待の実施ではなく配当の実施および自己株式の取得・消却により株主の皆様へ利益を還元しております。特に剰余金の配当については、経営体質の強化と将来のグループ全体としての事業展開を考慮しつつ、株主の皆様へ安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。